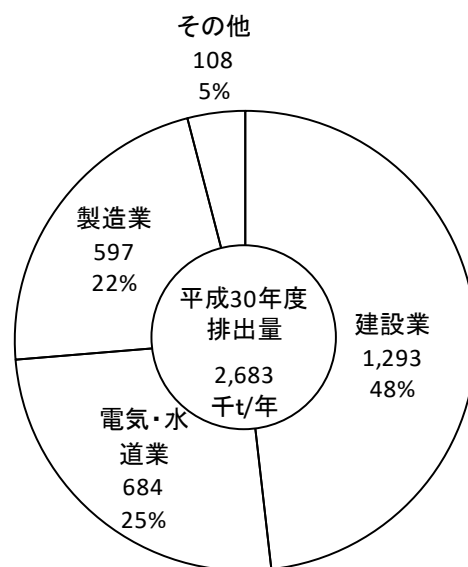
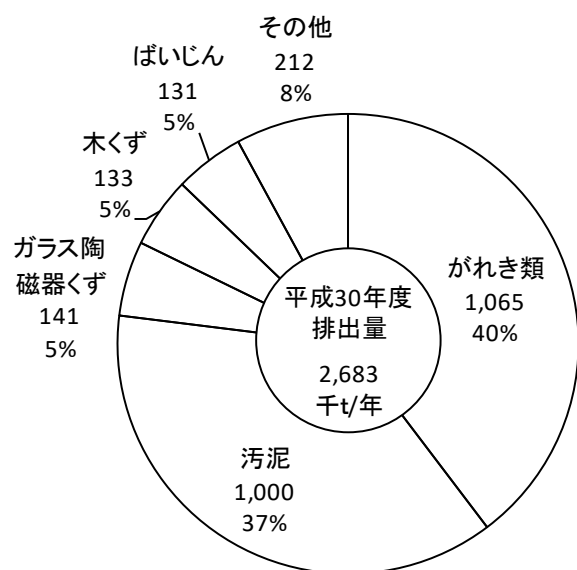


産業廃棄物の処理状況

1 産業廃棄物の排出状況

平成 30 年度の 1 年間に岩手県内で排出された産業廃棄物の排出量は 2,683 千トンとなっており、種類別にみると、がれき類が 1,065 千トン(40%)で最も多く、次いで、汚泥が 1,000 千トン(37%)となっており、この 2 種類で全体の 77%を占めている。(図 1)

業種別にみると、建設業が 1,293 千トン(48%)で最も多く、次いで、電気・水道業が 684 千トン(25%)、製造業が 597 千トン(22%)となっており、この 3 業種で全体の 95%を占めている。(図 2)
排出量を種類別、業種別にみると表 1 のとおりである。



※図中の千 t 表示及び構成比(%)の数値は、四捨五入の関係で、合計と個々の数値の計が一致しないものがある。

図 1 産業廃棄物の種類別の排出量

図 2 産業廃棄物の業種別の排出量

表 1 産業廃棄物の種類別、業種別の排出量（平成 30 年度）

(単位:千t/年)

業種 種類	合計	鉱業	建設業	製造業	電気・水道 業	情報通 信業	運輸業	卸・小 売業	飲食 店、宿 泊業	医療、 福祉	教育、 学習支 援業	複合 サービ ス業	サービ ス業	その他 の業種
合計	2,683 (100%)	5 (0%)	1,293 (48%)	597 (22%)	684 (25%)	3 (0%)	2 (0%)	9 (0%)	1 (0%)	9 (0%)	0 (0%)	7 (0%)	59 (2%)	12 (0%)
燃え殻	13 (0%)		1	9	1		0		0	0	0		2	0
汚泥	1,000 (37%)	5	51	233	679	0	0	2	1	1	0	7	16	4
廃油	13 (0%)	0	1	6	0	0	0	3	0	0	0	0	3	0
廃酸	7 (0%)		0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
廃アルカリ	10 (0%)		0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
廃プラスチック類	60 (2%)	0	20	11	0	0	1	3	0	2	0	0	20	2
紙くず	24 (1%)		2	23										
木くず	133 (5%)		105	28										
繊維くず	1 (0%)		1											
動植物性残さ	17 (1%)			17										
動物系固形不要物	1 (0%)												1	
ゴムくず	0 (0%)			0									0	
金属くず	11 (0%)	0	5	1	0	0	0	0	0	0	0		3	1
ガラス陶磁器くず	141 (5%)	0	35	91	2	2	1	1	0	0	0		6	2
鉱さい	32 (1%)		0	31							0		1	
がれき類	1,065 (40%)		1,061	4										
ばいじん	131 (5%)		0	128	3			0					1	
動物の死体	3 (0%)			1						0			1	2
その他	21 (1%)		11	1	0	0	0	0	0	5	0		3	0

※表中の千 t 表示及び構成比(%)の数値は、四捨五入の関係で、合計と個々の数値の計が一致しないものがある。

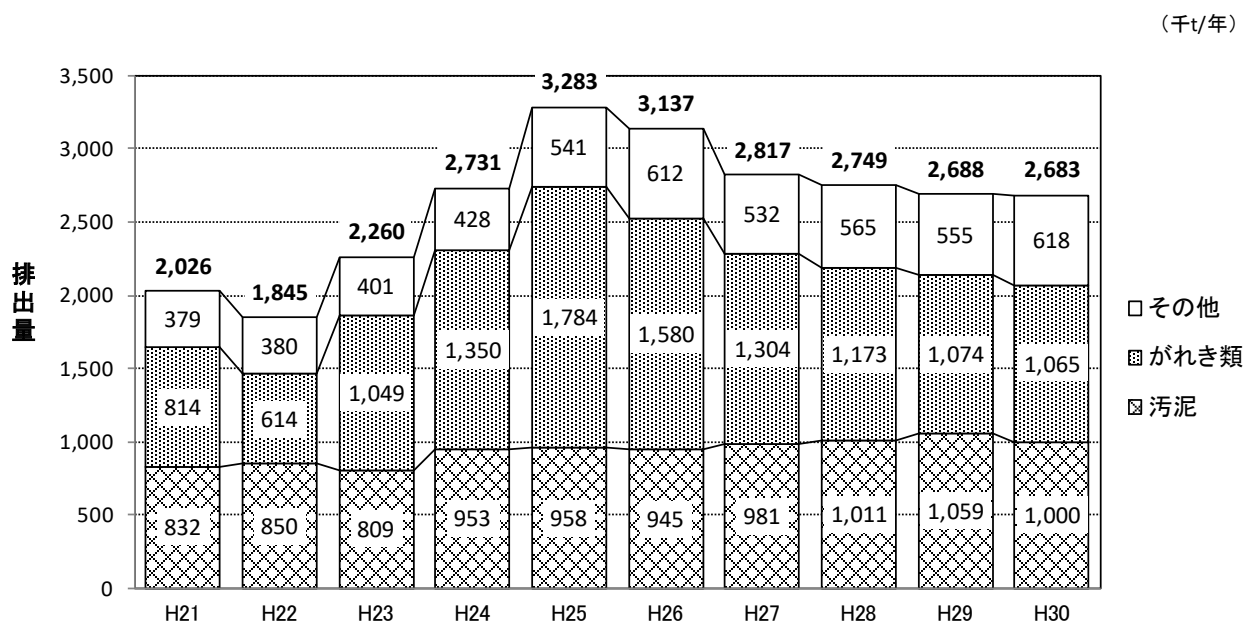
〔参考〕表 2 産業廃棄物の種類別、業種別の排出量（平成 29 年度）

(単位:千t/年)

業種 種類	合計	鉱業	建設業	製造業	電気・水道 業	情報通 信業	運輸業	卸・小 売業	飲食 店、宿 泊業	医療、 福祉	教育、 学習支 援業	複合 サービ ス業	サービ ス業	その他 の業種
合計	2,688 (100%)	5 (0%)	1,355 (50%)	551 (21%)	685 (26%)	0 (0%)	2 (0%)	8 (0%)	1 (0%)	7 (0%)	1 (0%)	1 (0%)	64 (2%)	8 (0%)
燃え殻	16 (1%)		3	10	0		0		0	0			2	0
汚泥	1,059 (39%)	5	122	227	679	0	1	1	0	1	0	1	19	3
廃油	13 (0%)	0	1	7	0	0	0	3	0	0	0		3	0
廃酸	7 (0%)		0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
廃アルカリ	10 (0%)		0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
廃プラスチック類	60 (2%)	0	19	13	0	0	1	2	0	2	0	0	22	2
紙くず	4 (0%)		3	1		0								
木くず	129 (5%)		101	28										
繊維くず	1 (0%)		1											
動植物性残さ	17 (1%)			17										
動物系固形不要物														
ゴムくず	0 (0%)			0										
金属くず	9 (0%)	0	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0
ガラス陶磁器くず	122 (5%)		29	76	4	0	0	3	0	0	0		8	1
鉱さい	25 (1%)		1	23									1	
がれき類	1,074 (40%)		1,069	4										
ばいじん	128 (5%)		0	126	1								1	
動物の死体	3 (0%)			1						0			0	2
その他	11 (0%)		2	1	0	0	0	0	0	4	0		3	0

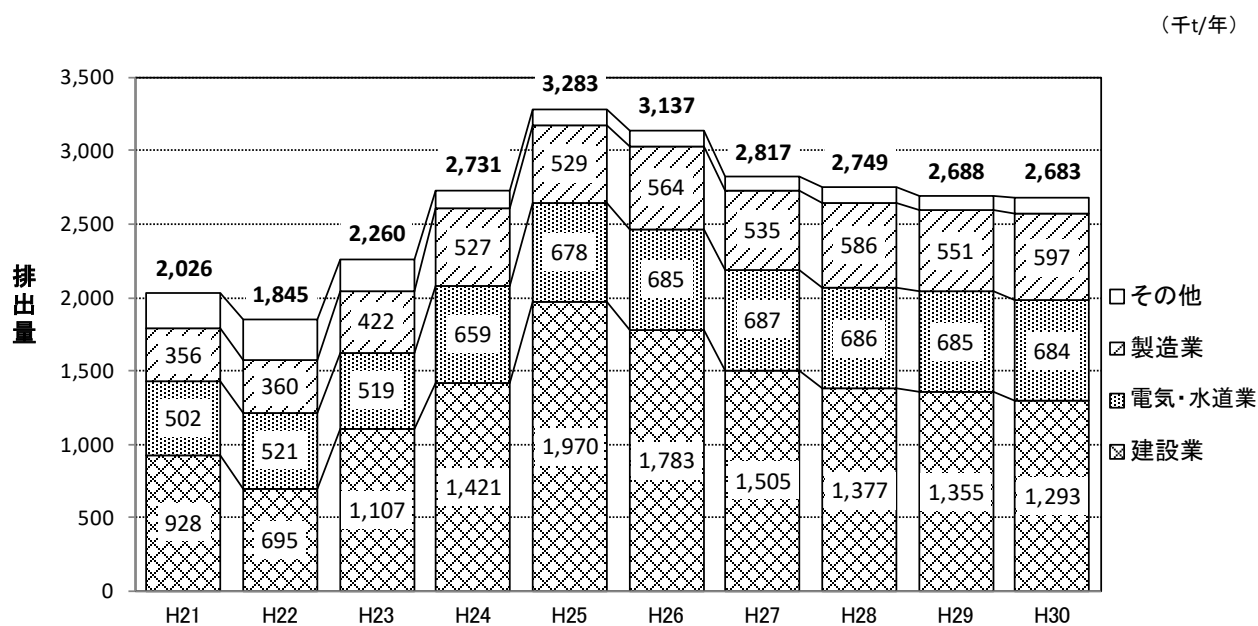
※表中の千 t 表示及び構成比(%)の数値は、四捨五入の関係で、合計と個々の数値の計が一致しないものがある。

種類別、業種別の推移は、図3～図7のとおりである。



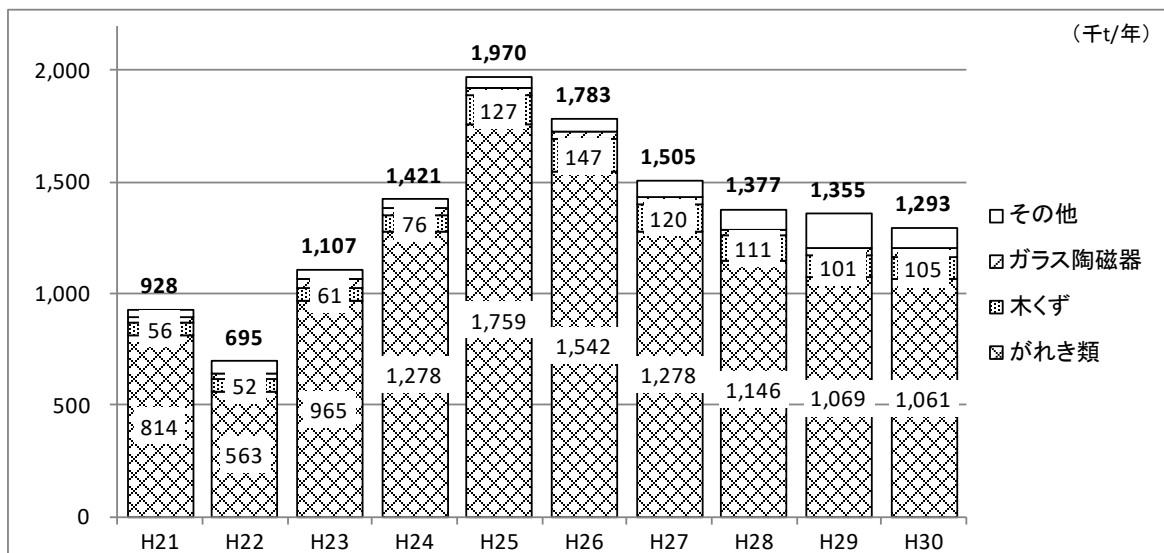
※図中の千t表示及び構成比(%)の数値は、四捨五入の関係で、合計と個々の数値の計が一致しないものがある。

図3 排出量（種類別）の推移



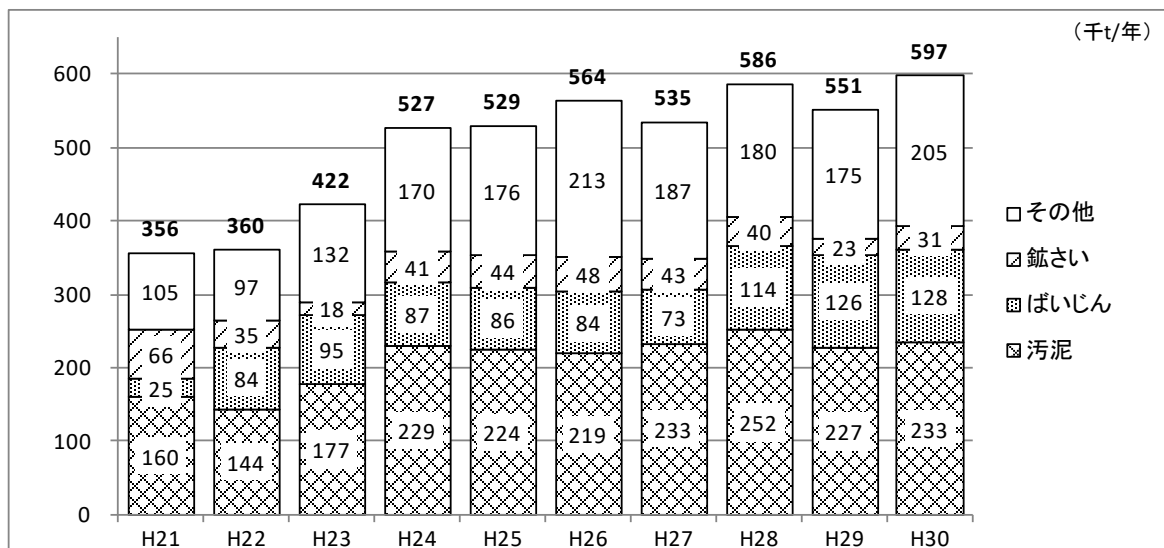
※図中の千t表示及び構成比(%)の数値は、四捨五入の関係で、合計と個々の数値の計が一致しないものがある。

図4 排出量（業種別）の推移



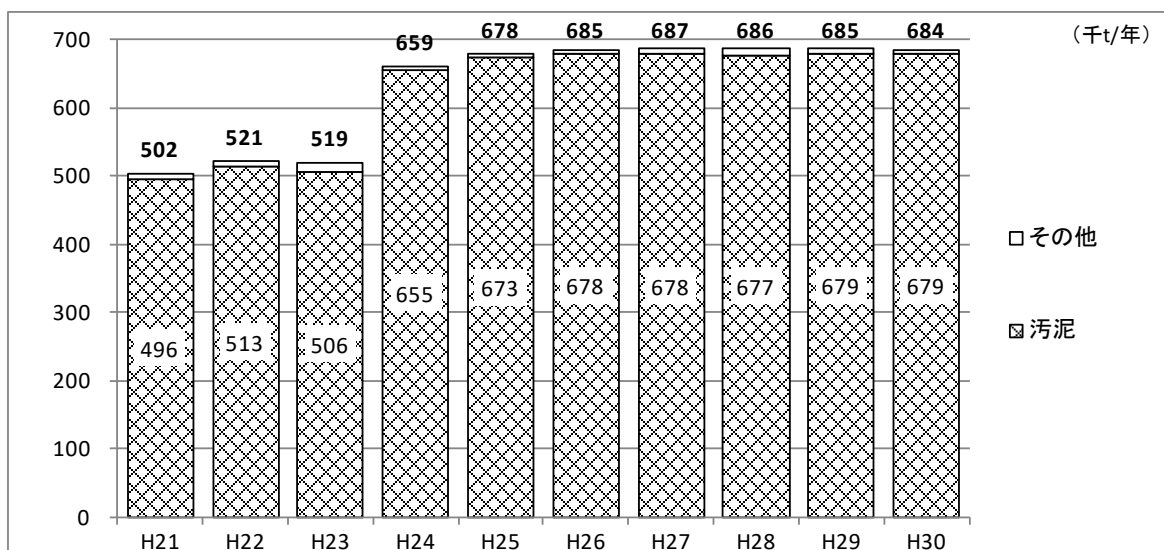
※図中の千t表示及び構成比(%)の数値は、四捨五入の関係で、合計と個々の数値の計が一致しないものがある。

図5 建設業の排出量の推移



※図中の千t表示及び構成比(%)の数値は、四捨五入の関係で、合計と個々の数値の計が一致しないものがある。

図6 製造業の排出量の推移



※図中の千t表示及び構成比(%)の数値は、四捨五入の関係で、合計と個々の数値の計が一致しないものがある。

図7 電気・水道業の排出量の推移

排出量を地域別にみると、盛岡地域が 798 千トン（30%）で最も多く、次いで、岩手中部地域が 588 千トン（22%）、両磐地域が 269 千トン（10%）、胆江地域が 208 千トン（8%）、釜石地域が 206 千トン（8%）、宮古地域が 201 千トン（7%）、気仙地域が 185 千トン（7%）、久慈地域が 118 千トン（4%）、二戸地域が 109 千トン（4%）となっている。（図 8、表 3）

なお、4 地域区分(広域)でみると表 3.4 のとおりである。

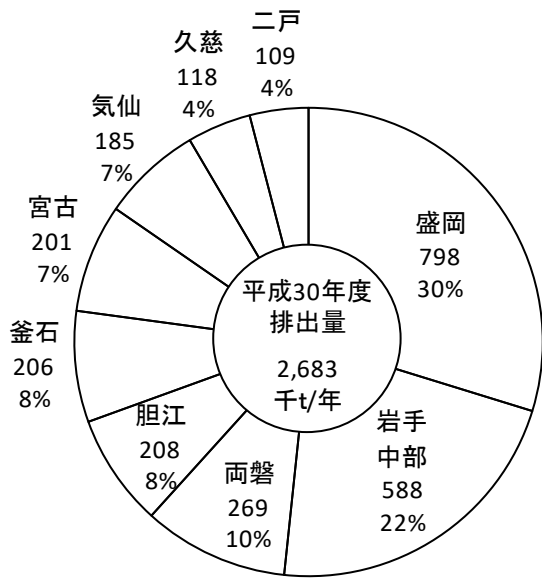


図 8 地域別の排出量

表 3 産業廃棄物の地域別の排出量（平成 30 年度）

(単位: 千t/年)

	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石	宮古	久慈	二戸	合計
建設業	411	216	113	96	97	112	149	61	39	1,293
製造業	77	228	30	110	33	57	15	30	18	597
電気・水道業	278	128	54	52	47	22	33	24	46	684
その他の業種	32	16	12	11	8	14	5	4	6	108
合計	798 (30%)	588 (22%)	208 (8%)	269 (10%)	185 (7%)	206 (8%)	201 (7%)	118 (4%)	109 (4%)	2,683 (100%)

※表中の千 t 表示及び構成比(%)の数値は、四捨五入の関係で、合計と個々の数値の計が一致しないものがある。

表 4 産業廃棄物の広域別の排出量（平成 30 年度）

(単位: 千t/年)

	盛岡広域	県南広域	沿岸広域	県北広域	合計
建設業	411	425	358	99	1,293
製造業	77	367	105	48	597
電気・水道業	278	234	102	70	684
その他の業種	32	39	27	10	108
合計	798 (30%)	1,065 (40%)	592 (22%)	227 (8%)	2,683 (100%)

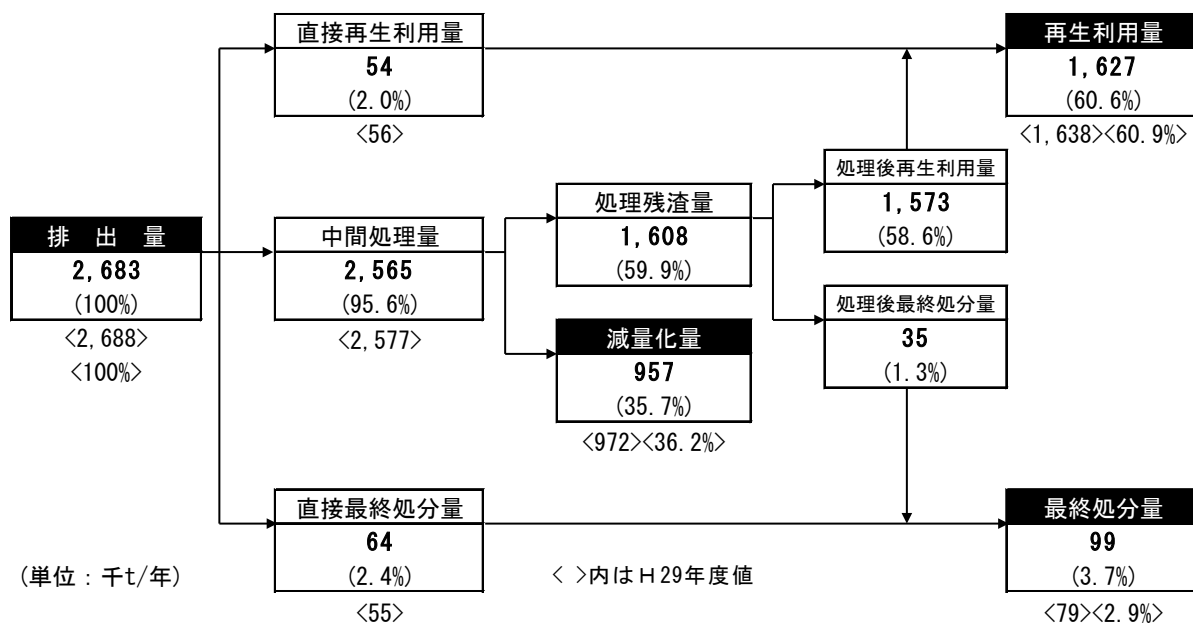
※表中の千 t 表示及び構成比(%)の数値は、四捨五入の関係で、合計と個々の数値の計が一致しないものがある。

2 産業廃棄物の処理状況

(1) 処理状況

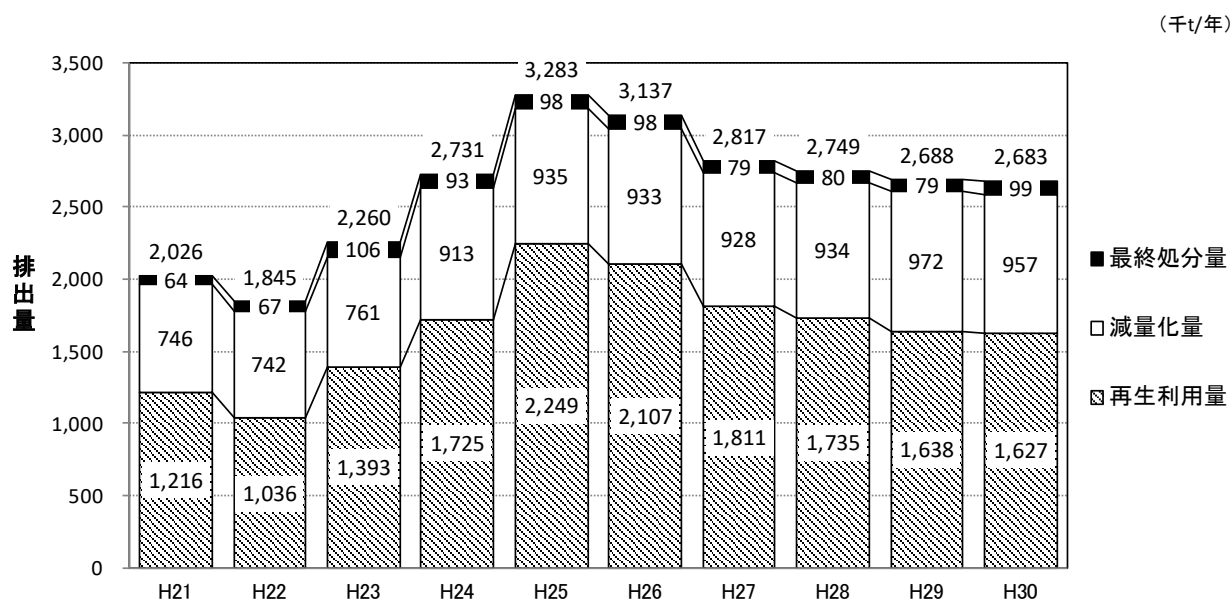
平成 30 年度における産業廃棄物の処理状況をみると、排出量 2,683 千トンのうち、96%に当たる 2,565 千トンが中間処理量となっている。この中間処理により 957 千トン（36%）が減量されている。

再生利用量は、排出量の 61%に当たる 1,627 千トン、最終処分量は 99 千トンで、排出量の 4%になっている（図 9）。



※図中の千 t 表示及び構成比(%)の数値は、四捨五入の関係で、合計と個々の数値の計が一致しないものがある。

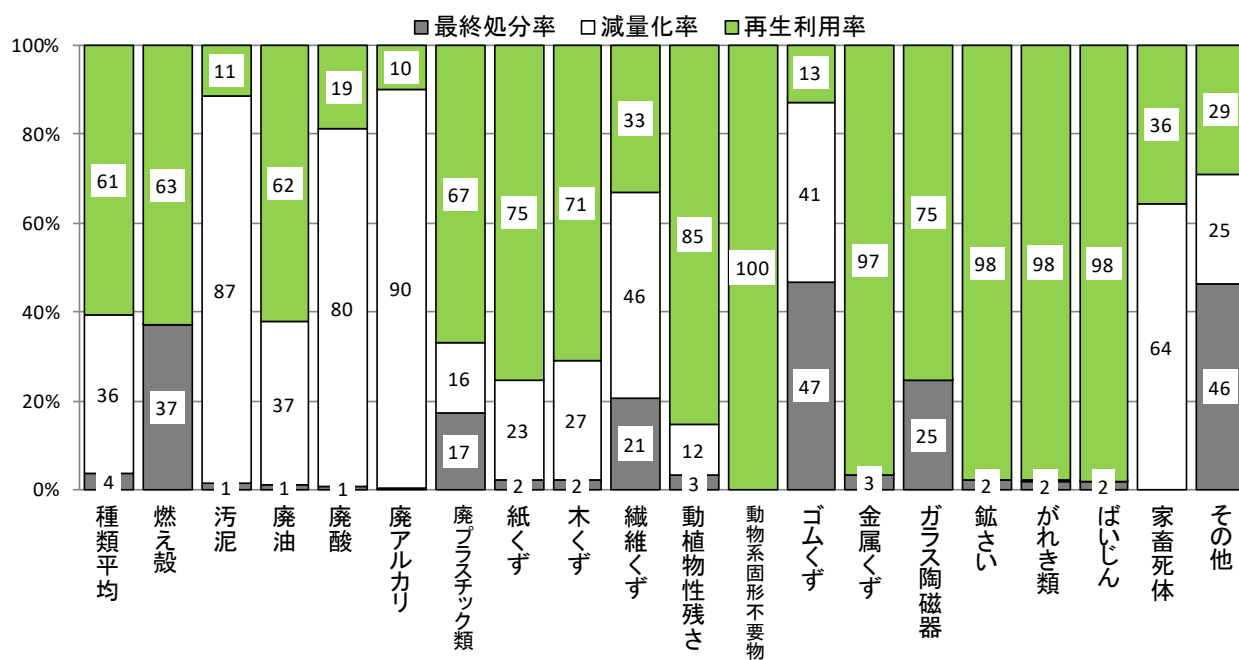
図 9 平成 30 年度の産業廃棄物の処理状況



※図中の千 t 表示及び構成比(%)の数値は、四捨五入の関係で、合計と個々の数値の計が一致しないものがある。

図 10 処理量の推移

種類別の処理状況は、図 11 のとおりである。

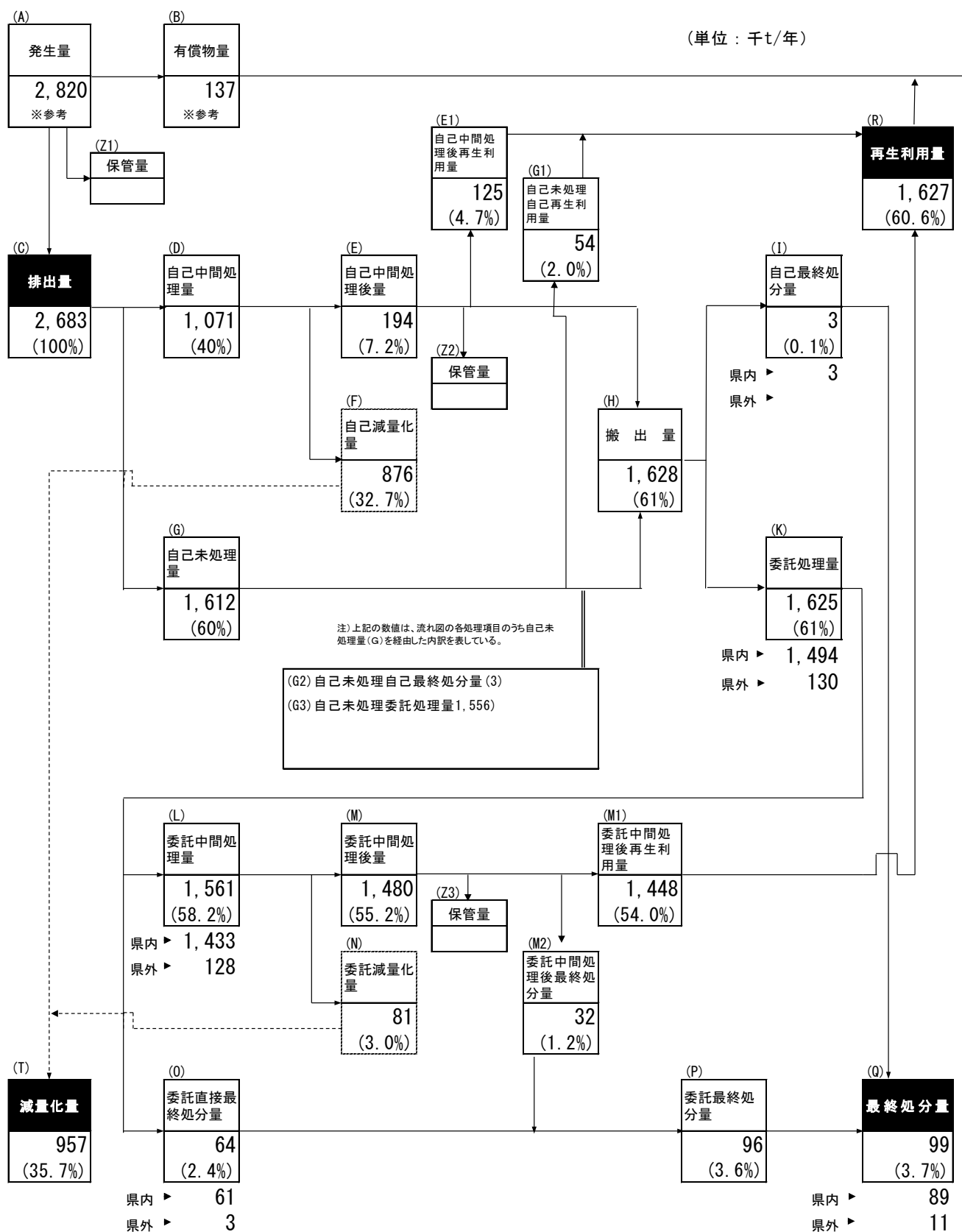


※種類は、中間処理による変化する前の種類で集計したもの。

※図中の構成比(%)の数値は、四捨五入の関係で、合計と個々の数値の計が一致しないものがある。

図 11 平成 30 年度の産業廃棄物の種類別の処理状況

平成 30 年度における産業廃棄物の処理状況を詳細にみると、図 12 のとおりである。



※図中の千 t 表示及び構成比(%)の数値は、四捨五入の関係で、合計と個々の数値の計が一致しないものがある。

図 12 平成 30 年度の産業廃棄物の排出・処理状況

(2) 再生利用量

平成30年度の1年間に岩手県内で排出された産業廃棄物の再生利用量は1,627千トンとなっており、種類別にみると、がれき類が1,042千トン(64%)で最も多く、次いで、ばいじんが129千トン(8%)、ガラス陶磁器くずが106千トン(7%)、以下、燃え殻が103千トン(6%)、木くずが91千トン(6%)等となっている。(図13)

再生利用量を種類別、業種別にみると表5のとおりである。

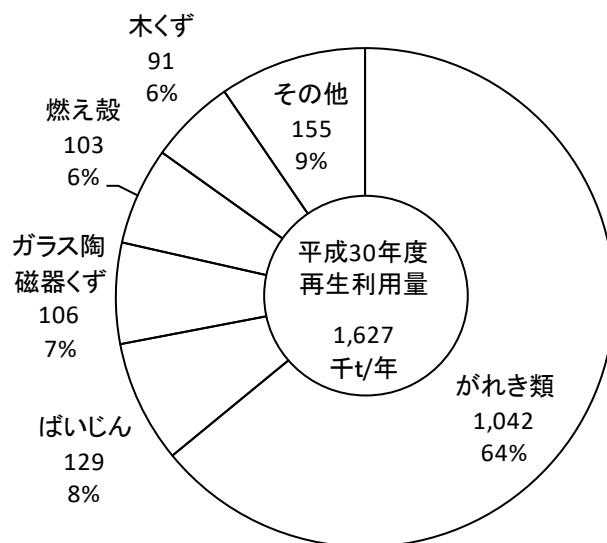


図13 産業廃棄物の種類別の再生利用量

表5 産業廃棄物の種類別、業種別の再生利用量

(単位: 千t/年)

業種 種類	合計	鉱業	建設業	製造業	電気・水道業	情報通信業	運輸業	卸・小売業	飲食店、宿泊業	医療、福祉	教育、学習支援業	複合サービス業	サービス業	その他の業種
合計	1,627 (100%)	1 (0%)	1,196 (74%)	359 (22%)	15 (1%)	2 (0%)	2 (0%)	7 (0%)	0 (0%)	1 (0%)	0 (0%)	1 (0%)	34 (2%)	7 (0%)
燃え殻	103 (6%)	0	25	64	6	0	0	1	0	0	0	0	7	0
汚泥	50 (3%)	1	15	21	6	0	0	0	0	0	0	1	4	1
廃油	7 (0%)	0	0	2	0	0	0	3	0	0	0		1	0
廃酸	1 (0%)		0	1						0		0	0	0
廃アルカリ	1 (0%)		0	0				0		0		0	0	0
廃プラスチック類	34 (2%)	0	12	5	0	0	0	2	0	0	0	0	13	1
紙くず	18 (1%)		1	18										
木くず	91 (6%)		90	1										
繊維くず	0 (0%)		0											
動植物性残さ	14 (1%)			14										
動物系固形不要物	1 (0%)												1	
ゴムくず	0 (0%)												0	
金属くず	11 (1%)	0	5	1	0	0	0	0	0	0	0		3	1
ガラス陶磁器くず	106 (7%)	0	8	89	2	2	1	1	0	0	0		2	2
鉱さい	12 (1%)			11							0		1	
がれき類	1,042 (64%)		1,039	4										
ばいじん	129 (8%)		0	127	2			0					0	
動物の死体	1 (0%)			0						0			1	0
その他	6 (0%)		2	1	0	0	0	0	0	0	0		3	0

※図中の千t表示及び構成比(%)の数値は、四捨五入の関係で、合計と個々の数値の計が一致しないものがある。

*種類は、中間処理により変化した種類で集計したもの。

(3) 最終処分量

平成30年度の1年間に岩手県内で排出された産業廃棄物の最終処分量は99千トンとなっており、種類別にみると、ガラス陶磁器くずが35千トン(35%)で最も多く、次いで、がれき類が19千トン(19%)、以下、汚泥が12千トン(12%)、廃プラスチックが9千トン(9%)等となっている。(図14)

最終処分量を種類別、業種別にみると表6のとおりである。

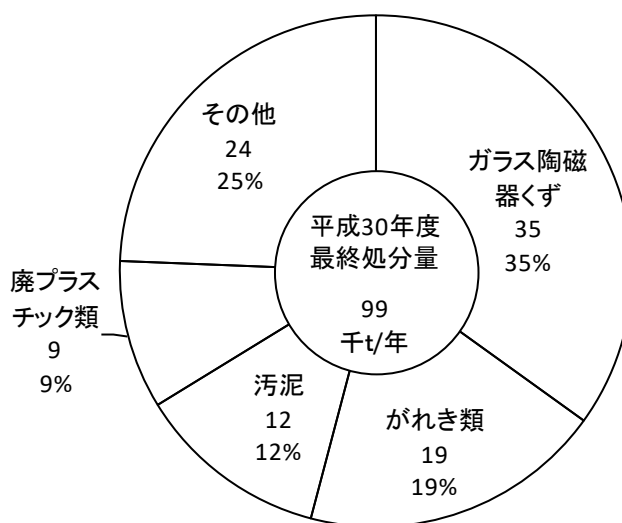


図14 産業廃棄物の種類別の最終処分量

表6 産業廃棄物の種類別、業種別の最終処分量

(単位:千t/年)

業種 種類	合計	鉱業	建設業	製造業	電気・水道業	情報通信業	運輸業	卸・小売業	飲食店、宿泊業	医療、福祉	教育、学習支援業	複合サービス業	サービス業	その他の業種
合計	99 (100%)	0 (0%)	68 (69%)	16 (16%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)	11 (11%)	2 (2%)
燃え殻	8 (8%)	0	2	4	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0
汚泥	12 (12%)		4	5	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1
廃油														
廃酸														
廃アルカリ														
廃プラスチック類	9 (9%)	0	5	1	0	0	0	0	0	0	0		3	0
紙くず	0 (0%)		0	0										
木くず	2 (2%)		2	0										
繊維くず	0 (0%)		0											
動植物性残さ	0 (0%)			0										
動物系固形不要物														
ゴムくず	0 (0%)												0	
金属くず	0 (0%)		0	0		0	0	0	0				0	0
ガラス陶磁器くず	35 (35%)		27	3	0	0	0	0	0	0	0		5	0
鉱さい	1 (1%)		0	0									0	
がれき類	19 (19%)		19											
ばいじん	2 (2%)		0	1	0								1	
その他	9 (9%)		8	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0

※図中の千t表示及び構成比(%)の数値は、四捨五入の関係で、合計と個々の数値の計が一致しないものがある。

*種類は、中間処理により変化した種類で集計したもの。